

多自然川づくり取り組み事例

タイトル：宮崎県における自然豊かな川づくりのための人材育成～宮崎県内の優れた川づくりの		
水系/河川名：宮崎県内の河川	河川分類：中小河川	
河川の流域面積：-km ²	整備計画流量：-m ³ /s(W=1/)	セグメント：0
事業：その他	事業開始年度 平成29年度	
目標設定：定量的	段階：C(モニタリング・評価時)	
課題・目的(主な)：その他		
工法(主な)：その他		
配慮事項(主な)：人材育成		

背景・課題、目標設定

〈背景〉

宮崎県では、平成19年度より「宮崎県自然豊かな水辺の工法研究会」をNPO法人大淀川流域ネットワークと協働で多自然川づくりに関する取り組みを継続して実施している。

一方、宮崎県の現状として、多自然川づくりの考えが反映されていない現場が多数存在していることや県内で実施してきた優良な川づくりの伝承が不十分であるという課題があり、全国的には、提言『持続性ある実践的多自然川づくりに向けて』が平成29年6月にまとめられ、課題の一つとして好事例の要因の分析、技術の向上、人材育成が示されており、宮崎県としても多自然川づくりのさらなる取り組みの充実を図ることになった。

〈目標〉

多自然川づくりの人材育成の一層の充実を図るため、宮崎県内の模範事例を選定した教材を整理し、その活用を図る。

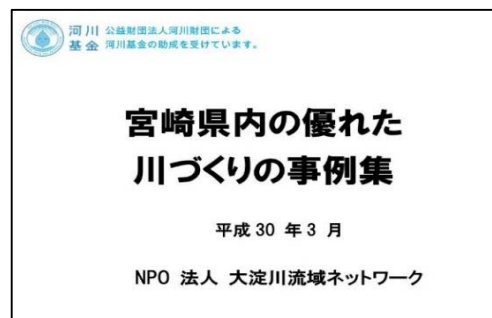
取り組み内容・対策例

〈取り組み内容〉

・宮崎県川づくりコンペ事例(119箇所)、九州川づくりコンペ事例(38箇所)、その他優良事例(7箇所)の合計164箇所から書類選考して候補事例33箇所を選定し、33箇所すべてを杉尾代表(大淀川流域ネットワーク)、河川課(宮崎県)、所管土木事務所(宮崎県)、宮崎河川国道事務所、延岡河川国道事務所(国)と一緒に現地調査を実施した。

・現地調査では、「いい川づくりのチェックシート」を用い、定量的に評価した。

・模範事例17事例を選定し、「宮崎県の優れた川づくりの事例集」(以下、「事例集」)をとりまとめた。



モニタリング結果、アピールポイント、今後の対応方針

〈アピールポイント〉

・事例集には、「いい川づくりのチェックシート」の点数だけでなく当該箇所の位置(緯度経度)、特徴、設計・施工上の注意点、施工者(建設会社)の情報を記載し、個別箇所の説明以外にも「いい川づくりのチェックシート」の調査項目の解説、維持管理上の注意点を記載することで活用しやすい教材となるように努めた。

・事例集を大淀川流域ネットワークのHPに記載することで、スマホ等でどこでも確認できるようにした。

・研修会にて杉尾代表より参加者(行政、企業(建設会社、コンサル等))に対し、資料配付と解説を行い、本事業に対する理解を深めた。

・平成29年度助成事業「川づくり団体部門」優秀成果団体(河川財団)となり全国的にも高い評価をいただいた。

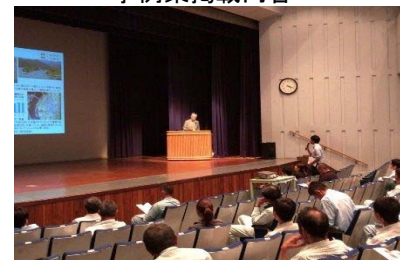
〈今後の対応方針〉

・現在、「防災・減災国土強靱化のための3カ年緊急対策」による工事に対し、工事実施後に、大淀川流域ネットワークと県が協働で「いい川づくりチェックシート」を用いたモニタリング調査を実施し、改善点を今後の工事に活かしていく予定である。

・次世代における人材育成として、県内の商業施設で優良事例のパネル展示を行い、一般の人にいい川づくりに感心をもってもらう。



事例集掲載内容



研修会の様子

備考

本取り組みは河川財団の河川基金助成事業として実施されており、実施主体の大淀川流域ネットワークと宮崎県の協働で実施しております。

問い合わせ先 宮崎県県土整備部河川課

電話番号 0985-26-7185